

じゅこう

第88号
(通算428号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室
・8月19日(水)
10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室
・8月25日(火)
19時～20時半
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室
・8月 金曜日開催
(月3回)

第26回 浄覚寺子ども会夏のつどい

七月十九日、第二十六回目となる「浄覚寺子ども会夏のつどい」を開催いたしました。炎天下で行う流しそうめんは心配でしたが、テントを張って日陰を作り、子どもたちは元気にたくさん食べてくれました。その他にも紙芝居や制作、ゲームなどをして、楽しい時間を過ごしました。無事に事故なく一日を過ごせたことに安堵しております。

でも、もちろん始まりと終わりには仏さまに手を合わせ、一緒にお勤めをしてご法話を聞いていただきます。今回のお話しは阿弥陀さまの願いについてお伝えしました。願いは目に見えないですが、確かにあると感じることがあります。親の願いもそうです。勉強しなさいとか、スマホばかり見てはいけませんと注意されることがあるでしょう。けれどこの言葉には、身体のこと

ことを気遣ってくれたり、学ぶことの大切さを伝えたいという親の願いが込められています。阿弥陀さまの願いは、みんな幸せになつてほしいということですね。お互いに悩みや苦しみはあるけれど、心配し、見捨てることなく寄り添ってくれる仏さまがここにいますよという願いです。その願いが「南無阿弥陀仏」の言葉の仏さまとなって私に届いています。願われている私であつたと気付かせていただきますとお話ししました。

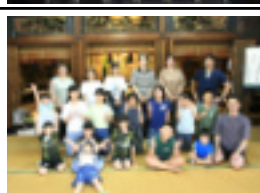
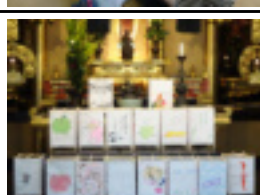
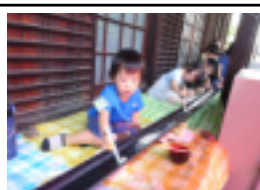
その話しを受けて、制作では灯笼を作成し、願いやメッセージを書いてもらいました。世界の平和を願ってくれる人もいれば、「現役合格」という欲が出た願いもありました。願いを持つことは自然なことですね。願いが叶うように努力することもあります。けれど、神仏に願つたとて叶うかどうかはわかりません。そこに因果関係はないのです。阿弥陀さまの願いは、思い通りに行くかどうか分からない私の人生、どんな姿であつても百点満点だと認めてくださいます。だからこそ精一杯生きる支えをいただくのです。

往還回向由他力
正定之因唯信心

往還の回向は他力による
正定の因はただ信心なり

往相も還相も他力の
回向であると示され、
浄土へ往生するための因は、
ただ信心一つである。

親鸞聖人『教行信証行巻』



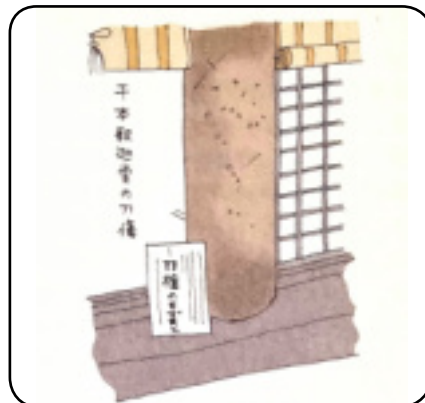
御文章に聞く(第81回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流勸化章(五帖第二十二通)
 されば、南無阿弥陀仏と申す体は、
 われらが他力の信心をえたるすがた
 なり、この信心というは、この南無
 阿弥陀仏のいわれを・あらわせる
 がたなりと・こころうべきなり、され
 ば、われらがいまの他力の信心ひと
 つをとるによりて、極楽にやすくと
 生すべきことの・さらに疑いもなく
 なし、あら殊勝の弥陀如来の本願や
 このありがたさの弥陀の御恩をば
 いかがして報じたてまつるべきぞな
 れば、ただねてもおきても・南無阿
 弥陀仏となえて・かの弥陀如来の
 仏恩を報ずべきなり、されば、南無
 阿弥陀仏となうるころはいかに
 りつるありがたさとうとさよとお
 るなりと・それをよろこびもうすこ
 あなかしこあなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を
 味わっていきたいと思います。今月からは当
 流勸化章の後半です。まずは大意から。
 南無阿弥陀仏の六字の名号は、私たちのい
 ただく、他力の信心の特色をあらわしている
 といえます。それは、私の信心といつても、
 阿弥陀仏の仰せをほかにして、成り立つこと
 は不可能であることをあらわしているからで
 す。また、私たちが信心をたまわることがで
 きるのは、南無阿弥陀仏の六字が、決して私
 を離れたまうことのない阿弥陀仏であること
 を証明されていること、心得られるからであ
 ります。このような道理がありますから、他
 力の信心ひとつで、必ず極楽に往生できると
 いうことは、決して疑いありません。
 なんと、すばらしい阿弥陀如来の本願であ
 りましょうか。このありがたき恩を、どの
 ように報ずべきでしょうか。それは、ただ寝
 ても起きても、南無阿弥陀仏と称えて、阿弥
 陀如来の恩を報ずべきなのであります。で
 あれば、私たちが南無阿弥陀仏と称える心は
 どのようなものかといえ、阿弥陀如来の御た
 すけのありがたさを尊く思つて、よろこび申
 す他にないと思得るべきであります。

仏教語辞典



本堂等の柱に日本刀でつけら
 れた傷。嵐山にある天龍寺の塔
 頭である弘源寺の長州藩士によ
 るものや、西本願寺から移築し
 た亀山本徳寺にある新撰組隊士
 によってつけられた刀傷、千本
 釈迦堂。応仁の乱の刀傷が有名。

刀傷
かたなきず

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストと
 わかりやすい言葉で読み解かれてい
 ます。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこ」をお届けいたします。
 「安心して死んでいける」それが浄土真宗です、と先日
 の月参りでお話をさせていただきました。数年前に癌の
 手術をされ、その後の数値も少しずつ悪くなってきた
 というご主人。最後は笑って死んで行きたいんだというお
 言葉でした。悲観せず、前向きなその言葉は私も嬉しかつ
 たです。共感の上にお念仏のお心をお伝えしました。「叶
 うのであれば私もそれが良いと思います。けれど、どんな
 最後を迎えるのかはやはり分からない。そんな私を、どん
 な亡くなり方であっても大丈夫、必ずお浄土へ迎え取る。
 仏さまに生まれさせてみせると誓い、はたらかれていますの
 が阿弥陀さまなのです。」そして、私が成仏する因はご信
 心をいただくことにあります。それは必ず救うと届いてく
 ださる阿弥陀さまの声を聞き受けて、全てを任せていくこ
 とです。いのちの解決を阿弥陀さまに任せられるからこそ、
 安心して死ねる、つまりは安心して生きていけるのです。

9月

九月二十三日(祝) 十四時より
 秋季彼岸会 法話 鶯地清登先生

日時・八月十五日(土) 十四時より
 行事・孟蘭盆会並びに 門信徒総追悼法要
 場所・長原浄覚寺
 法話・花岡静人先生(奈良)
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
 孟蘭盆会のご法要に併せて門信徒総追悼法要を厳修して
 おります。ご法要の中で故人のご法名を拝読し、偲ばせ
 ていただきながら、この度のご法要をできるだけ身近な
 ものに感じていただければと思っております。別紙申込
 書にて期日までにお届けいただきますようお願いいたします。

行事案内